

## ミュージアム・エドゥケーター 研修会

学校のよりよい利用形態にむけて

～美術館を活用した鑑賞授業を通して考える～

墨田区立業平小学校  
南 育子



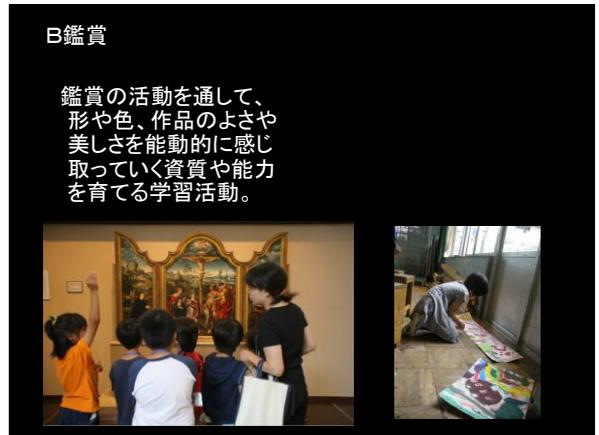
### 1. 図画工作科における鑑賞の扱い

#### 教科の目標(学習指導要領より)

表現及び鑑賞の活動を通して、感性を働かせながら、つくりだす喜びを味わうようにするとともに、造形的な創造活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。



図画工作科  
(領域) A表現とB鑑賞



B鑑賞

鑑賞の活動を通して、  
形や色、作品のよさや  
美しさを能動的に感じ  
取っていく資質や能力  
を育てる学習活動。

表現と鑑賞は本来一体であり、相互に関連して響き合うことで児童の資質や能力を培うことができる。

「B鑑賞」においては、「A表現」の指導に関連させて行うことを原則とすることを示している。ただし、指導の効果を高めるため必要がある場合には、児童の関心や実態を十分考慮した上で、すべての学年の児童に、鑑賞を独立して扱うことができることを示している。

- ・児童がよさや美しさなどについて関心をもって見たり一人一人の感じ方や見方を深めたりすることができる内容であること。
- ・鑑賞の対象は発達の段階に応じて児童の関心や親しみのもてる作品などを選ぶようにするとともに、作品や作者についての知識や理解は結果として得られるものであることに配慮する。
- ・児童が対象について感じたことなどを言葉にしたり友人と話し合ったりするなど言語活動の充実について配慮すること。

なぜ、美術館へいくのか？

自分の経験や感覚を通して、形や色、質感や空間などの造形的な特徴をとらえる。

形や色などの造形的な特徴をもとに、友だちと一緒に見ることで、一人ではきづきできなかったような見方をする。

美術館ならではの鑑賞ができる



2, 美術館を活用した実践事例より

国立西洋美術館  
墨田区立粟平小学校 2013/3  
3年生

鑑賞授業実施まで

- ①鑑賞授業の校内の日程調整
- ②候補日を美術館教育普及学芸員さんに伝え可能日を決め、打ち合わせの日程調整
- ③現場で学芸員さんとのような鑑賞ができるか作品をみながら相談する  
子どもの様子を伝えお互いの役割などを決める
- ④鑑賞トークメモを作成、時程詳細を作成し、学芸員さんに送付
- ⑤当日、学芸員さんは、到着時刻にあわせて入り口で出迎えてくださる







### 3. 鑑賞授業の背景として

- ① 東京都図画工作研究会      ② 墨田区図画工作研究会
- +
- 国立西洋美術館                      東京都現代美術館
- 東京国立近代美術館
- 東京国立近代美術館工芸館                      毎年、夏期休業中に美術館を会場に子どもの鑑賞について考える研修会を実施
- 東京都現代美術館
- 東京都美術館
- 連携美術館鑑賞研修会                      (2006年から実施)
- (2003年から実施)



### テーマ 子どもを育む「鑑賞」を考える

見る＝先入観や情報にたよらないで自分の目で見る

感じる・考える＝自分なりに見て、感じたことから考えを組み立てる

言葉にする＝自分の思いや考えを他者に伝える

聞く＝他者の思いや考えを知る・認める

- ・学校と美術館と一緒に子どもの鑑賞について考え、教員向けの研修会を計画し、運営する。
- ・美術館でどんな授業をすることができるか、研修会を通して参加者が鑑賞することを体験し、実感をもって考えることができる。
- ・鑑賞授業が一部の教員だけのものにならないよう、悩んでいる人へ開かれた場とする。
- ・各地区でこのような研修会がもてるように学芸員と教員がつながりを持つ場となる。(顔見知りになることで、話しやすくなる)





教員による子どもへのギャラリートーク 「聖アントニウスの誘惑」



教員と学芸員による、少人数にわけたグループワーク



全体会 意見交換

### 3. 鑑賞授業の背景として

- ①東京都図画工作研究会      ②墨田区図画工作研究会
- +
- 国立西洋美術館                      東京都現代美術館
- 東京国立近代美術館
- 東京国立近代美術館工芸館
- 東京都現代美術館
- 東京都美術館
- 連携美術館鑑賞研修会                      毎年、夏期休業中に美術館を会場に子どもの鑑賞について考える研修会を実施
- (2006年から実施)
- (2003年から実施)

### 内 容

1. 教員の鑑賞体験  
 ギャラリートーク体験  
 現代美術の視点からワークショップ  
 言語活動の視点からワークショップ
2. 鑑賞授業につながるグループワーク
3. 学校と美術館の意見交換



ギャラリートークを体験する  
 「子どもはどんなことを感じるのだろうか？」(2008/7)



ワークシートをつかい授業づくりとシミュレーション (2008/7)



**学芸員によるワークショップ**  
 Aグループが見た作品を言葉や動作で伝える。  
 Bグループは聞いた話から絵に描いて答える。  
 (2012/8)



**言葉をつかったいろいろな鑑賞に挑戦**  
 (2012/8)



この研修会をなぜ継続しているのか？

東京都現代美術館は墨田区の近隣にあり、すべての学校が子どもを連れて美術館に出かけることが可能である。

東京都図画工作研究会で運営したノウハウを活かし、墨田区で研修会を立ち上げた。(2006年)

- ・すでに東京都現代美術館にでかけ、3校が鑑賞授業を実施していた。美術館の鑑賞に関心を持つ教員が増える。が・・・

美術館側も学校の来館普及活動をしている。

- ・教員向けの教育普及プログラム
- ・墨田区校長会への教育普及プログラム、活動内容の説明
- ・墨田区図画工作研究会部会参加

研修会を継続することで

- ・学芸員と教員が顔見知りになり、相談しやすい関係ができた。
- ・学校言語と美術館言語の交流・お互いの現場の交流により、足りないことを補う関係ができる。
- ・学校での子どもの様子と美術館での子どもの様子の交流をお互いの現場で生かしている。
- ・教員の資質向上(美術を通じた感覚の覚醒)
- ・鑑賞授業の充実(美術館でも学校でも)

研修会を継続することで大切なこと

この研修会を企画する担当を若い世代に引き継いでいくこと！

